

研究主題「地域社会に働きかける児童を育てるための指導の工夫—「地域の発展に 尽くした先人の事例」における教材と学習活動の工夫を通して—

東京都教職員研修センター研修部教育経営課
台東区立蔵前小学校 教諭 中村左都子

I 研究のねらい

小学校社会科のねらいは公民的資質の基礎を養うことである。中学年においては、地域の社会的事象について理解し、地域社会の一員としての自覚や地域社会に対する誇りと愛情をもつことが大切である。しかし、国立教育政策研究所の「平成 15 年度教育課程実施状況調査質問紙集計結果」によると、社会科の学習と社会の一員としてよりよい社会を考えることが結び付いていないという現状がある。

これらのことから、よりよい地域社会を目指して努力する人々の働きを通して、児童が地域社会とのかかわりを深め、地域社会に誇りと愛情をもち、地域社会の一員として働きかけることができるようにするための指導の工夫が必要であると考えた。

そこで、本研究では、地域社会に働きかける児童を育てるための教材と学習活動の視点及びそれらの学習指導計画における効果的な位置付けを明らかにすることをねらいとした。

II 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 基礎研究

地域社会に働きかける児童を育てることをねらいとした実践についての先行事例を収集し、教材と学習活動の二つの視点から分析を行う。

(2) 実践研究

- ① 第 4 学年「青山士^{あきら}と荒川放水路」における「地域社会に働きかける児童の姿」を明確にし、「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」「地域社会とかかわり、働きかける学習活動」を位置付けた学習指導計画を作成する。
- ② 検証授業を実施し、児童の反応及び変容から地域社会に働きかける児童を育てるための教材と学習活動及び学習指導計画への位置付けの有効性を検証する。

2 研究の仮説

児童が地域社会とのかかわりを深められるように「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」と「地域社会とかかわり、働きかける学習活動」を学習指導計画に位置付けることによって、地域社会に働きかける児童が育つ。

III 研究の結果と考察

1 基礎研究

(1) 「地域社会に働きかける児童」について

児童が地域社会に働きかけるためには、地域社会に誇りと愛情をもつことが重要である。地域社会に誇りと愛情をもつとは、自分とのかかわりにおいて価値のある地域の社会的事象を発見し、自慢に思うこと、大切に思うことである。

以上のことを踏まえ、本研究では、「地域社会に働きかける児童の姿」を「地域社会の人々の行動や気持ちの変化を願って、自分の考えを伝える姿」さらに、「よりよい地域社会のために自

分ができることを考え、行動しようとする姿」ととらえた。

(2) 教材と学習活動の視点及び学習指導計画への位置付け

先行研究を分析することにより、地域社会に働きかける児童を育てるためには「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」と「地域社会とかかわり、働きかける学習活動」が必要であることが分かった。

そこで、これらを学習指導計画に効果的に位置付けるために、下記の通り、視点を整理した。

① 「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」の視点

〈視点ア〉 地域社会の人々の生活が向上し、現在の地域社会の人々の生活につながる姿が見える教材

〈視点イ〉 強い信念をもち、よりよい地域社会を目指して努力した人物の姿が見える教材

〈視点ウ〉 様々な立場の人々の姿が見える教材

② 「地域社会とかかわり、働きかける学習活動」の視点

〈視点1〉 教材を基に地域の社会的事象に気付く学習活動

〈視点2〉 教材を基に地域の社会的事象について考えたり話し合ったりする学習活動

〈視点3〉 教材を基に地域社会に働きかける学習活動

③ 学習指導計画への位置付け

ア 「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」の視点に沿って、具体的な教材を開発し、地域社会を見る視点を広げ、それらの視点を関連付けて、現在の地域社会の人々の生活について見直すことができるようにした。

イ 「地域社会とかかわり、働きかける学習活動」の視点に沿って、具体的な学習活動を設定し、児童と地域社会とのかかわりを深め地域社会に働きかけることができるようにした。

2 実践研究

(1) 「青山士と荒川放水路」の学習指導計画の作成

① 本小単元で目指す地域社会に働きかける児童の姿

「よりよい地域社会のために強い信念をもって努力した青山士の働きを現在の地域社会とのかかわりから価値付け、大切に思う気持ちをもつ。地域社会の人々にも大切に思ってもらいたいという願いをもって手紙を書き、さらに、よりよい地域社会を願って自分ができることを考え、行動しようとする。」

② 本小単元における「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」

視点	地域社会の中で生きる人々の姿	授業で使用する具体的な教材
ア	・ 明治 43 年の大洪水をはじめとして昔の地域社会の人々は洪水の被害で苦しんでいた。	・ 洪水の写真、被害地図、隅田川の近くの洪水に遭った地域
	・ 荒川放水路の開削により、地域社会の人々の生活は向上した。	・ 洪水の被害年表グラフ ・ 開削前後の地図、荒川放水路と岩淵水門の模型ビデオ ・ 平成 11 年の台風時の岩淵水門の写真 ・ 新岩淵水門と資料館の人の話 ・ 明治から平成の人口増加が分かる地図
	〈修正後の新たに加えた人々の姿〉 ・ 荒川放水路によって、現在の地域社会の人々は安心して生活することができる。	〈修正後の新たに加えた教材〉 ・ 現在の地域社会の人々からの手紙
イ	・ 荒川放水路の工事には青山士の中心的な働きがあった。	・ 青山士の写真・地域の話 ・ 荒川放水路工事と青山士の年表、工事の写真と絵、模型 ・ 岩淵水門の写真、文章資料
	・ 青山士は強い信念をもって工事を成し遂げた。	・ 青山士の言葉、完成記念碑と碑文
ウ	・ 荒川放水路開削のために多くの人々がつらく悲しい思いで立ち退いていった。	・ 荒川放水路の部分にセロハンを貼った開削予定地図 ・ 立ち退いた人々の写真、文章資料

③ 本小単元における「地域社会とかかわり、働きかける学習活動」の工夫 ④ 学習指導計画への位置付け

視点	授業における具体的な学習活動
1 教材を基に地域の社会的な事象に気付く	・洪水の写真や被害地図、ビデオなどを見る。
	・洪水の被害に遭った隅田川の近くの地域を歩く。 ・青山士についての地域社会の人の話を聞く。 ・青山士に聞きたいことをカードに書く。
2 教材を基に地域の社会的な事象について考えたり話し合ったりする	・洪水の被害がなくなった理由を調べ、考える。 ・青山士の働きや苦心を調べ、考える。 ・立ち退いた人々の様子を調べ、考える。
	・洪水の被害に遭った人々、青山士、立ち退いた人々の思いを考え、吹き出しに書いて話し合う。 ・洪水の被害に遭った人々、青山士、立ち退いた人々の立場に分かれて話し合う。
	・青山士と荒川放水路の価値を考え、話し合う。 ・実際に荒川放水路を見て学習したことを振り返る。 ・平成11年の写真を見ながら資料館の人の話を聞き、現在の地域社会とのかかわりについての考えをまとめる。
3 教材を基に地域社会に働きかける	・明治から平成の人口増加が分かる地図を見て自分ができると考え、手紙を書き、回覧板で届ける。 ・地域社会の人々からの手紙を読み、現在も地域社会のために働いている人々がいることを考え、再度手紙を書く。
	<p>（修正後の学習活動）</p> <p>・「青山士と荒川放水路」について考えたことを伝える手紙を書き、回覧板で届ける。</p> <p>・地域社会の人々からの手紙を読み、手紙をくれた地域社会の人々の思いを考え、地域社会の一員として自分ができると考える。</p>

		地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材（数字は時数）		
		視点ア	視点イ	視点ウ
地域社会とかかわり、働きかける学習活動	視点1	ア 1・2時		
		イ 3時		
	視点2		ウ 4～6時	エ 7時
	オ 8・9時			
	視点3	カ 10時		
	カ 修正後の11時			
		カ 10～12時（修正後の2時）		

(2) 検証授業の結果及び考察

① A児の反応と変容（2(1)④「学習指導計画への位置付け」参照）

A児は検証授業前の実態調査では、自分と地域社会とのかかわりや、よりよい地域社会のために自分ができることについてはあまり気付いていなかった児童である。

【地域社会とのかかわりに気付かせ、深める場面（ア～エ）】

「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」として、アで、浅草の洪水の写真や洪水の被害年表グラフ等を提示することにより、A児は、地域社会の人々の生活を向上させた荒川放水路（視点ア）という視点から地域社会を見ることができると気付いた。

次に、イウで、青山士に関する教材を提示したことにより、地域社会を見る視点を荒川放水路の工事に尽力した人物の姿（視点イ）へと広げることができた。

その後、エで荒川放水路開削予定図や立ち退いた人々の写真等（視点ウ）を提示したことにより、荒川放水路工事に尽力した人物の姿とは異なる立場の人々へと、地域社会を見る視点をさらに広げることができた。

なお、イウにおいて、青山士を知る地域社会の人の話や年表、写真や絵などを段階的に提示したことは、荒川放水路の工事に尽力した人物の働きや思いについての理解を深めることにつながった。

以上のような教材を提示するに当たって、「教材を基に地域の社会的な事象に気付く学習活動」から「教材を基に地域の社会的な事象について考えたり話し合ったりする活動」へと展開していくことにより、A児は地域社会とのかかわりを深めていくことができた。

【地域社会に対する誇りと愛情を育てる場面（オ）】

ここでは、これまでの学習で身に付けた地域社会を見る3つの視点を関連付けて考えることができる学習活動（視点2）を設定した。そのことにより、A児は「工事に反対する

人もいたけれど、みんなが納得してできあがったから、地域の人にとっての宝物だと思う。安全な地域にしてくれて、私たちが安心して住めるから最高のお守りだと思う。」と、荒川放水路を価値付け、大切に思う心情をもつことができた。

さらに、荒川放水路を実際に見る学習活動（視点2）をこの学習場面の最後に位置付けたことにより、地域社会の人々に働きかけようとする意欲をもつことができた。

【現在の地域社会を見直し、働きかける場面（カ）】

「教材を基に地域社会に働きかける学習活動」として、地域社会の人々に自分の思いを伝える手紙を書き、届ける活動を設定したことにより、A児は、前時に芽生えた働きかけようとする意欲を行動に結び付けることができた。また、多数寄せられた地域社会の人々からの手紙を読み、自分たちが働きかけたことの意味を実感し、「青山さんは何年もかけて町を守ってくれたから今度は私たちが何年もかけてよくしていきたい。」とよりよい地域社会のために自分ができることを考えることができた。

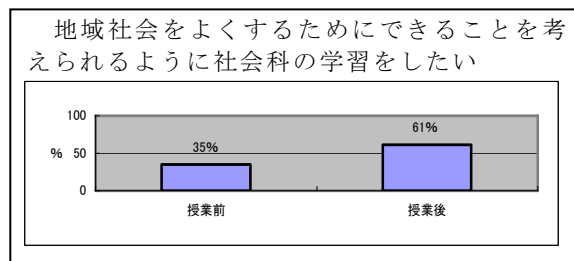
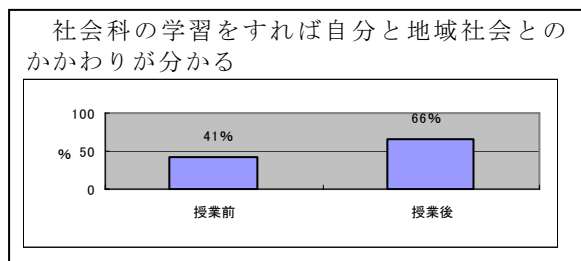
これまでの学習で、地域社会を見る視点を広げ、自分とのかかわりを深めてきたことにより、A児は現在の地域社会への働きかけについても考えることができたと言える。

なお、「教材を基に地域社会に働きかける学習活動」を設定するに当たっては、教材の視点に「現在の地域社会の人々の姿」を加える、学習活動の順序を入れ替えるという修正を行った。

② 児童全体の変容

検証授業の前後で実態調査を行ったところ、自分と地域社会とのかかわりを深め、よりよい地域社会のためにできることを考えようとする児童が増えたことが分かった。

【検証授業を実施した第4学年児童「そう思う」と答えた児童の割合】



(3) 検証授業のまとめ

- ① 児童が地域社会とのかかわりを深められるように、「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」と「地域社会とのかかわり、働きかける学習活動」を学習指導計画に位置付けることは、「地域社会に働きかける児童」を育てるために有効であった。
- ② 「教材を基に地域の社会的事象について考えたり話し合ったりする学習活動」から「教材を基に地域社会に働きかける学習活動」への接続が円滑になるように教材と学習活動の位置付けを見直すことが必要である。

IV 今後の課題

- (1) 他の単元における「地域社会の中で生きる人々の姿が伝わる教材」「地域社会とのかかわり、働きかける学習活動」を位置付けた学習指導計画を作成する。
- (2) 「地域社会に働きかける児童」を育てるための系統的な年間指導計画を作成する。
- (3) 学習したことを日常生活に生かすことができるような手だてを工夫する。